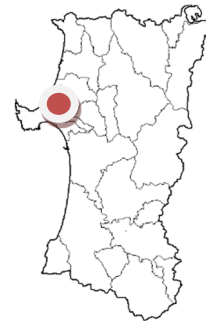


大潟村大潟地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会



かつて日本第2の湖だった八郎湖を干拓し誕生した新生の大地

秋田県大潟村は、国営八郎潟干拓事業により昭和39年に誕生。村内は海水面より低い土地で、中央開拓地15,666haのうち農地が約8割弱を占めており、大雨の冠水によって農作物の被害が発生していた。また、かんがい用水は、高低差を利用して残存湖（八郎湖）から取水され、排水は全てポンプによって中央干拓地内から残存湖へ排出。大雨時は急激な電力使用により電気代が大幅に増加していたこともあり、「田んぼダム」の取組を始めた。



秋田県大潟村



〔洪水防止〕

平成25年から農地・水保全管理支払交付金（現多面的機能支払交付金）による水田の貯留機能向上活動として、田んぼダムに取り組んでいる。田んぼの排水ボックスに調整板を設置し、雨の流出量を排水口で絞り、田んぼの貯留機能を向上させることで冠水を防止し農作物への被害を防ぐとともに、大雨時の排水機場の電気代抑制にも寄与している。



〔取組の推進〕

大潟村の田んぼダムの取組は、村の農家の約4割が参加し（R2年運営委員会調べ）、取組参加率を上げるため、啓発・広報活動も行なっている。

なお、木製調整板の腐食が進行していたことから、平成30年度に農家へ再配布した。今後、腐食しない材質の調整板による取組推進などを検討していく。



構成員から募集したキャッチフレーズ等による「田んぼダム」の啓発



残存湖に囲まれた大潟村の広大な干拓地